23日　火曜

Ⅱサムエル

21:1 ダビデの時代に、三年間引き続いて飢饉が起こった。それで、ダビデは【主】の御顔を求めた。【主】は言われた。「サウルとその一族に、血の責任がある。彼がギブオン人たちを殺戮したからだ。」
21:2 王はギブオン人たちを呼び出し、彼らに話した。このギブオンの人たちは、イスラエル人ではなくアモリ人の生き残りで、イスラエル人は彼らと盟約を結んでいた。だが、サウルはイスラエルとユダの人々への熱心のあまり、彼らを討とうとしたのである。
21:3 ダビデはギブオン人たちに言った。「あなたがたのために、私は何をすべきであろうか。私が何をもって宥めを行ったら、【主】のゆずりの地が祝福されるだろうか。」
21:4 ギブオン人たちは彼に言った。「私たちと、サウルおよびその一族との間の問題は、銀や金のことではありません。また、私たちがイスラエルのうちで人を殺すことでもありません。」ダビデは言った。「私があなたがたに何をしたらよいと思うのか。」
21:5 彼らは王に言った。「私たちを絶ち滅ぼそうとした者、私たちを根絶やしにしてイスラエルの領土のどこにも、いさせないように企んだ者、
21:6 その者の息子の七人を私たちに引き渡してください。私たちは【主】が選ばれたサウルのギブアで、【主】のために彼らをさらし者にします。」王は言った。「引き渡そう。」
21:7 王は、サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテを惜しんだ。それは、ダビデとサウルの子ヨナタンの間で【主】に誓った誓いのためであった。
21:8 王は、アヤの娘リツパがサウルに産んだ二人の息子アルモニとメフィボシェテ、それに、サウルの娘メラブがメホラ人バルジライの息子アデリエルに産んだ五人の息子を取って、
21:9 彼らをギブオン人の手に渡した。彼らは、この者たちを山の上で【主】の前に、さらし者にした。これら七人は一緒に倒れた。彼らは、刈り入れ時の初め、大麦の刈り入れの始まったころ殺された。
21:10 アヤの娘リツパは、粗布を手に取って、それを岩の上に敷いて座り、刈り入れの始まりから雨が天から彼らの上に降るときまで、昼には空の鳥が、夜には野の獣が死体に近寄らないようにした。
21:11 サウルの側女アヤの娘リツパのしたことはダビデに知らされた。
21:12 ダビデは行って、サウルの骨とその息子ヨナタンの骨を、ヤベシュ・ギルアデの者たちのところから持って来た。これは、ペリシテ人がサウルをギルボアで討った日に、二人をさらし者にしたベテ・シャンの広場から、ヤベシュ・ギルアデの者たちが盗んで行ったものであった。
21:13 ダビデはサウルの骨とその息子ヨナタンの骨をそこから携えて上った。人々は、さらし者にされた者たちの骨を集めた。
21:14 彼らはサウルとその息子ヨナタンの骨を、ベニヤミンの地のツェラにあるサウルの父キシュの墓に葬り、すべて王が命じたとおりにした。その後、神はこの国の祈りに心を動かされた。

Bible Reference 聖書の記述

飢饉という苦しみの中で、何かみこころに沿わないことがあるのではないかと、主に伺ったのは良いことでした。私たちは苦しみにある人を、罪があるからだと決め付けることは間違いですが、しかし自分自身に関しては、もしかしたら罪があるのかもしれないと、考えてみるのは良いことです。

しかしながら、ダビデは主に伺っておきながら、その具体的な行動においては神様に聞かず、ギブオンの人たちの言いなりになってしまいました。それで7人もの命を犠牲にしてしまったのです。ヨナタンの子であるメフィボシェテは「惜しんだ」のですから、それがどんなに残酷なことであるかは分っていたはずです。

主に聞くことは単に教えられたとか、心が満たされた、恵まれたという内面的なことだけではありません。具体的な行動も聞いて従わなければならないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？